

2020年サクラだより 7.

ここ2、3日で新型コロナVの感染者が大阪、神戸地区でも増加傾向、もはや「グリーン・ゾーン」とは言えなくなって来たのでは無いかと思われ
ます。

3月5日、6日に気象会社から今年の桜の開花予想が出されてきました。恐らくこれが、今年の最終予想と思われますので、過去3年間の地域の開花日と合わせて報告しています。なお、個人でも簡単に開花日が予測できるとの文献がありますので添付します。

開花予報だけでは寂しいので、昨年一部の希望者に配布した「サクラに関するあれこれ2019」を増補した「2020版」を掲載します。

*今年の桜(ソメイヨシノ)の開花予想

発表 3月 5日

場所	日本気象(株)		ウェザーマップ社	
	開花	満開	開花	満開
彦根	3/25	4/1	3/21	3/28
京都	3/19	3/28	3/18	3/27
大阪	3/23	3/30	3/20	3/29
神戸	3/21	3/30	3/21	4/1
奈良	3/22	3/30	3/17	3/25
和歌山	3/22	3/30	3/19	3/28

・全国的に暖冬であったので休眠打破は遅れ気しかし3月の気温が高目に推移するため相し開花は早くなると2月の発表を修正。両社とも例年開花一満開の日数を6日程度で発表しているが今年は長が目に予想。・実際はどうなるでしょう。因みに上記の近畿地区の平年と過去3年間の開花日を記載しておきます。

	平年	2017	2018	2019
彦根	4/2	4/5	3/27	4/4
京都	3/28	3/31	3/22	3/27
大阪	3/28	3/30	3/20	3/27
神戸	3/28	3/27	3/23	3/27
奈良	3/29	4/3	3/24	3/29
和歌山	3/26	3/30	3/20	3/25

*サクラに関するあれこれ 2020

*サクラ(バラ科サクラ属)について

サクラの名の由来

サクラの「サ」は、古代日本人が神聖感をお覚えた「音」で、神霊を意味するようになり、特に農耕神、サガミ(田神)をさすに至った。「クラ」は「座」を意味する。即ち、サクラは「田の神のより憑る座」だったのである。農耕文化と深く結びついて、その年の豊凶を占う木であった。

*サクラは、

- ・日本での自生は11種(世界では約100種)
(従来10種とされてきたが、2018年クマノザクラが自生種に認定された。)
- ・野生種の花弁は5枚
- ・自分の花粉では受精しない(自家不和合性)
- ・広義には梅も桃も仲間
- ・・・自生10種+1種は
- ・ヤマザクラ群
ヤマザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ
オオシマザクラ **クマノザクラ (2018)**
- ・マメザクラ群
マメザクラ、タカネザクラ
- ・チョウジザクラ群 チョウジザクラ
- ・カンヒザクラ群 **カンヒザクラ**
- ・エドヒガン群 エドヒガン
- ・ミヤマザクラ群 ミヤマザクラ

・なお最近では、ヤマザクラには原種が10種程度あり複雑に自然交雑し現在100品種程度が自生しているのではないかとされている。

たしかに、ヤマザクラには、花や芽吹き時の色、花の大きさ、花の色、開花の時期等異なることが多い。

*「ソメイヨシノ」

・江戸時代に染井村(現在の東京都豊島区)の植木屋が「吉野桜」として売り出す。

・奈良・吉野山」の桜と区別するために、明治時代に「染井吉野」と命名。

・伊豆半島での自然交雑種、韓国済州島起源説など異説もある。現在は上記、染井村創出説定着。

＊ソメイヨシノのDNA分析結果・・・。

従来、ソメイヨシノはエドヒガンを母にオオシマザクラを父とした交雑種とされて来たが・・・

・ 最近のDNA分析の結果では

エドヒガン	47%
オオシマザクラ	37%
ヤマザクラ	11%
その他	5%

であることが分かってきている。

「野生のオオシマザクラにヤマザクラが交配していたのではないか？」とのこと。

(オオシマザクラは交雑種を作り易い！)

従って現在みられる「ソメイヨシノ」の起源は

- ・野生のオオシマザクラがヤマザクラと交雑？
- ・このオオシマザクラを父に、エドヒガンを母に交雑(配)されたものであるとされる。

＊ソメイヨシノの外見的特徴

樹形は横に大きく広がる傘状。花卉は5枚で葉が出る前に花が開き、満開となる。開花期は九州・四国地方で3月下旬頃。花色は薑では萼等も含めて濃い赤に見えるが、咲き始めは淡紅色で、満開になると白色に近づく。原種的一方であるエドヒガン系統と同じく満開時には花だけが密生して樹体全体を覆うが、エドヒガンよりも花が大きく、派手である。エドヒガン系統の花が葉より先に咲く性質とオオシマザクラの大きくて整った花形を併せ持った品種である。

萼筒は紅色で、壺のような形をしている。樹高はおおよそ10-15 m。若い木から花を咲かすために非常に良く植えられている。果実は小さく、わずかに甘みもあるが、苦みと酸味が強いので、食用には向かない。

＊森林総合研究所などによるDNAマーカーを用いた研究では、各地から収集されていたソメイヨシノが同一クローンであることが確認されている。現在、沖縄・奄美を除く全国50地点で季節観察の標準ザクラに指定され、開花や満開の期日を測定、公表されている。

＊ソメイヨシノはてんぐ巢病に弱いため、公益財団法人日本花の会では2009年からソメイヨシノの苗木の販売を中止し、替わって、てんぐ巢病

に強く、開花時期が近く花がソメイヨシノに類似する姉妹種のジンダイアケボノへの植え替えを推奨しています。

＊地球温暖化で開花はどうなるか？

ソメイヨシノなど統計に残るサクラの開花は年々早くなる傾向が見られている。この原因は地球温暖化の影響で2月、3月の気温の上昇と考えられている。

ところで、このまま地球温暖化が進み、世界の平均気温が今世紀末に20世紀末より約2.8℃上昇すると想定すれば、サクラの開花は平均して1ヶ月開花が早まるとの予想がなされている。

だが「もっと懸念されるのは、花が咲かなくなることかもしれない」という指摘もある。・・・

(休眠打破には5℃以下の期間がある程度必要)
・伊藤久徳・九州大・名誉教授(気象学)らがソメイヨシノについて分析したところでは、今世紀末に国内の平均気温が2.5～3℃上昇すると、全国451地点のうち九州南部などの30ヶ所は満開にならず、うち5ヶ所は開花もしないとの予測をだされている。

・現在のソメイヨシノの開花南限は鹿児島県・種子島であるが北上すると指摘されている。

＊以上は「毎日新聞」2017年3月2日
《科学の森》より抜粋しました。

＊ジンダイアケボノ(神代曙)

日本原産の交雑種のサクラ

1912年に日本から米国のワシントンD.Cにソメイヨシノが贈られて後に米国現地でこのソメイヨシノと別種のサクラが交雑して出来たソメイヨシノの実生から米国現地名で「Akebono」(アケボノ)と呼ばれる品種が誕生した。1965年、この「Akebono」を日本の都立神代植物公園に逆輸入することになったが、既に日本には「アケボノ」という別種のサクラが存在したため「アメリカ」と呼称されることになった。そしてこの「アメリカ」を神代植物公園で接ぎ木して育てたところ、1本が「アメリカ」と特徴の違う花を咲かせて、西田尚道により「アメリカ」とは異なる品種であることが明らかにされた。これを原木とし、

1991年に種苗法で新品種として登録されたのが**ジンダイアケボノ**である。命名者は林弥栄であり品種名は原木の植栽地と旧名に因む。公益財団法人日本花の会によると、ジンダイアケボノの父親となる米国現地でソメイヨシノと交雑したサクラの品種は、形態学の観点から米国の野生種ではなく、日本から米国に渡った日本のサクラであり、ジンダイアケボノは日本のサクラ同士の雑種であると考えられている。

ジンダイアケボノは、開花の時期もほぼ同じ（1～2日早いくらい）で、花が咲いた後に葉っぱが出る、というところもソメイヨシノと同じ。ソメイヨシノと比べると少し小ぶりの木ですが、確かによく似ているようです。花は下の写真。



*別紙に公表されている「サクラの開花予測の簡易法」を添付します。初めの・400℃法では3月1日、配信の「たより4」の下方に各地域の2月の日平均気温の積算値を記載してあるので、これに、3月以降の日の平均温度を加算して行けば、開花日が予想できるというものです。仮に、今月も、日の平均温度が10℃程度で推移すれば、3月20日前後の開花となるでしょう。今回、発表されている各社の開花予想日に近くなるでしょう。皆さまの地区の開花を予想して見ては如何。

*紙面があまりました。うめぐさに、「休眠打破」芽測定中の観察枝の昨日の状況・写真記録を掲載しておきます。

2月26日採取枝の状況です。

室温は平均22℃ぐらいとやや高め？

花芽20個中、芽の先から花がのぞいた芽

5個、花先がのぞいた芽5個、膨らんで来た芽5個、動きのない芽、5個です。葉芽4個に動きはありません。…今日、明日には開花宣言できるかも・・・。



皆さまと同じく、3月1日採取の枝では



花芽24個中、膨れの見られる[♂]16個です。葉芽は6個とも動きなしです。

以上